

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

87

研究変革 II RX

筆者が好きな、フラ

ンスの生化学者ルイ・パストールの言葉がある。意識すると「機会」は、準備された心を好んで訪れる」だろう

か。日頃の深い洞察と備えがあつてこそ、単なる偶然を幸運な機会に変えることができる。新型コロナウイルス感染症の広がりや脅威だが、これを真に必要な変革を成す絶好の機会と捉える企業や業界もあるだろう。

大学などの研究開発現場でも、コロナ禍での工夫と努力が多くの先導的事例を生み、新

時代の研究開発の在り方を示唆している。もちろん、分野や地域に

断絶を克服

研究開発における人と人のコミュニケーションの在り方も変わりつつある。オンライン化が急速に進み、遠隔での打ち合わせや研

究指導、学会のバーチャル開催が、研究者を

創造性の発揮に注力

を促進している。RXはまた、人と機械とのコミュニケーションの再考も促

す。実験操作をロボットのリアルタイムの研究コ

ミュニケーションが併

存すると見る。それは

なぜか。例えばデジタル格差の問題がある。デジタルネイティブが牽引する未来でも、

「誰も取り残されない」を築くこと。これが次

研究コミュニケーション 人の創造性発揮



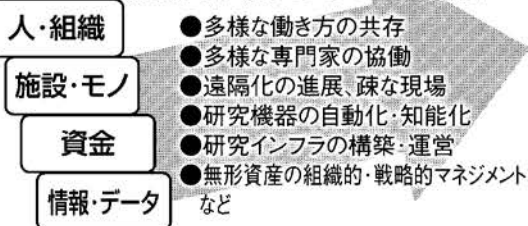
科学技術振興機構(JST) 研究開発戦略センター 企画運営室 主査

梅原 千慶

日米で生物物理学・ナノバイオテクノロジー分野の基礎研究に従事。JST入職後、ライフサイエンス研究の推進や日本医療研究開発機構(AMED)設立に伴う事業企画などの業務を経て、19年より現職。博士(学術、東京大学)、MBA(カナダ・マギル大学)。

研究開発活動の全体最適化に向けて

先導的事例によるRXの推進



研究コミュニケーション

(オンライン・バーチャルおよびオフライン・リアル)

JST 研究開発戦略センター「リサーチトランスフォーメーション(RX)ポスト /with コロナ時代、これからの研究開発の姿へ向けて」(2021年1月)を基に作成

価値の創出

(金曜日に掲載)